

トマトキバガの初確認について

害虫名：トマトキバガ(チョウ目キバガ科) *Tuta absoluta* (Meyrick)

1 発生の経緯

令和5年7月12日、県内のトマト栽培ほ場周辺に設置したトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップにおいて誘殺されたガの成虫(写真1)を横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが7月18日に判明した。現在のところ、本種による農作物の被害は確認されていない。

本種は、国内では令和3年10月に熊本県、同年12月に宮崎県のトマトほ場で初めて確認された。その後、青森県や秋田県等、計19道県でトラップによる誘殺が確認されている(令和5年7月21日現在)。

2 形態

- (1)成虫(写真2上)は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。
- (2)幼虫(写真2下)は、終齢で約8mm。体色は淡緑色~淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

3 生態と被害

- (1)1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10~12世代発生する地域もある。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (2)成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうち平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。
- (3)トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも、寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる(写真3)。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する(写真4)。

4 防除対策

- (1)ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2)トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所又は、最寄りの農業改良普及センターに連絡する。

(3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。

(4) トマト及びミニトマトのトマトキバガに対する登録農薬は表1のとおり(令和6年1月1日現在)。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う(農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)。



写真1 本県で誘殺された成虫



写真2 トマトキバガの成虫(上)と幼虫(下)



写真3 トマト葉の食害痕



写真4 トマト果実の食害痕

写真2～4は農林水産省植物防疫所原図

表1 トマトキバガに登録のある薬剤

(令和6年1月1日現在の登録内容)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	登録作物		希釈倍数・ 使用量	使用時期	本剤 使用 回数	成分 の総 使用 回数
			トマト	ミニ トマト				
5	脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	ダブルシューターSE	○	○	1000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内
	スピネトラム水和剤	ディアナSC	○	○	2500～5000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内
		ラディアントSC	○	○	2500～5000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内
6	アバメクチン乳剤	アグリメック	○	×	500～1000倍	収穫前日まで	3回 以内	3回 以内
	エマメクチン安息香酸塩 乳剤	アフーム乳剤	○	○	2000倍	収穫前日まで	5回 以内	5回 以内
11A	BT水和剤	エスマルクDF	○	○	1000倍	発生初期 (但し、収穫前 日まで)	—	—
13	クロルフェナピル水和剤	コテツフロアブル	○	○	2000倍	収穫前日まで	3回 以内	3回 以内
22A	インドキサカルブ水和剤	トルネードエース DF	○	×	2000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内
22B	メタフルミゾン水和剤	アクセルフロアブル	○	○	1000倍	収穫前日まで	3回 以内	3回 以内
28	シアントラニプロール 粒剤	プリロツソ粒剤	○	○	2g/株、株元散 布	育苗期後半～ 定植時	1回	※1
		プリロツソ粒剤オメガ						
	シアントラニプロール 水和剤	ベネビアOD	○	○	2000倍	収穫前日まで	3回 以内	※1
		ベリマークSC	○	○	400株あたり 25mL、灌注	育苗期後半～ 定植当日	1回	※1
	テトラニプロール水和 剤	ヨーバルフロアブル	○	○	2500倍	収穫前日まで	3回 以内	※2
フルベンジアミド水和剤	フェニックス顆粒水和剤	○	○	2000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内	
30	フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	○	○	2000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内
UN	ピリダリル水和剤	プレオフロアブル	○	○	1000倍	収穫前日まで	2回 以内	2回 以内

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8960 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページメルマガ
登録フォーム